

<http://www.ageofautism.com/2011/01/keeping-anderson-cooper-honest-is-brian-deer-the-fraud.html>



アンダーソン・クーパーよ、正直であれ：ブライアンは不正をはたらいたのか？

文責：J・B・ハンドリー

「君は明らかに英語が分かっていない。ブライアン・ディアはサンデー・タイムズのスタッフではない。彼はフリーランスのジャーナリストで、自分のウェブサイトやブログを持っている。サンデー・タイムズの支配下にも指示下にも置かれていない。ディア氏はサンデー・タイムズのジャーナリストを自称すべきではない。彼はスタッフではなく、サンデー・タイムズから給料をもらっているわけではないし、サンデー・タイムズの年金制度にも加入していない。彼はフリーランスとして自分で税金を払っている。サンデー・タイムズに記事を書いていると言うなら、それは正しいだろう。サンデー・タイムズに時々記事を寄稿しているから。しかしもう一度言うが、サンデー・タイムズは彼を雇ってはいない・・・」

ーサンデー・タイムズ、法務部長、アレステア・ブレット

私はアンダーソン・クーパー360にブライアン・ディアが出演しているのを観た。この番組でアンダーソンがきつい質問をすると、彼は長い間目を閉じたままだった。「この男はいったい何者なのだ？」と私は自問し続けた。

ブライアン・ディアが実は何者なのかに対する答えは、厳しい形ですぐに出された。大手マスコミの多く、特にCNNやアンダーソン・クーパーが、ブライアン・ディアの履歴調査もせず、ランセット誌論文の12症例の親に相談もせず、アメリカの親を根拠もなく安心させるような場をこの一人のジャーナリストに与えることで、米国の視聴者をいかにひどく裏切っているかに、私はただただ驚くばかりだと言わざるをえない。この男のことが分かれば分かるほど、不気味さが増す一方である。話が長くなるので、前もって断っておきたい。

ブライアン・ディアに関して分かったことをいかに挙げる。

1. 彼は現在もこれまでもサンデー・タイムズの記者ではない。では、いったい誰が彼に賃金を支払っているのか？

これはサンデー・タイムズからの前記の電子メールからも明らかな事実であるが、ブライアン・ディアは何と言っているか？ 彼は次のように述べている。

チェトリー：ロンドン・サンデー・タイムズ紙の調査ジャーナリスト、ブライアン・ディア氏です。おはようございます。

ディア：私は 1980 年代早期からロンドン・サンデー・タイムズ紙に勤務している調査ジャーナリストです。

ディア：私はあの記事を書くよう英国医師会誌から依頼されました。それがジャーナリストの仕事ですから。

チェトリー：ロンドン・サンデー・タイムズ紙やイギリスの 4 チャンネルとの関係はどうなっているのですか？

ディア：そこに勤務していますよ、ええ。ジャーナリストとしてももちろん給料ももらっています。仕事をするために雇われました、あなたと同じですよ。

チェトリー：なるほど。

ディア：あなたはあなたの仕事をして賃金をもらい、私は私の仕事をして賃金をもらっています。

ディア氏は、2007 年から 2010 年の間に 160 日間、アンドリュー・ウェイクフィールド医師の GMC (General Medical Council ; 英国医事委員会) の審理に出席している。この間、賃金を支払ったのは誰か？ 彼はフリーランスのジャーナリストでありながら、2004 年以降はほとんど記事を書いていない。ワンクリック・グループのジェーン・ブライアントがディア氏に、GMC の審理の期間中のことについて尋ねた。以下が両者の会話である。

ジェーン・ブライアント：ブライアン、毎日毎日審理に出席していた間、賃金を支払っていたのは誰ですか？

ブライアン・ディア：サンデー・タイムズ紙と 4 チャンネルです。

ジェーン・ブライアント：毎日の分を全部支払っていたのですか？

ブライアン・ディア：まあ、ご存知のように私の収入は必ずしも・・・

ジェーン・ブライアント：私は正当な質問をしているのです。どのくらいの賃金を得ていますか？

ブライアン・ディア：では、あなたに賃金を支払っているのは誰ですか？

ジェーン・ブライアント：誰も支払っていません。

ブライアン・ディア：誰も？

ジェーン・ブライアント：私はまったくの無償でサービスを提供しています。

ブライアン・ディア、困惑して：それはまた、なんとも・・・

ジェーン・ブライアント：あなたはサンデー・タイムズ紙からいくら給料をもらっているのですか？

ブライアン・ディア：個人的な収入のことは、あまり話したくありません。

ジェーン・ブライアント：収入のことを話す気はないのですね？

ブライアン・ディア：誰が私に賃金を支払っているか言ったでしょう！ 製薬企業から賃金をもらったことは一切ないと言ったでしょう！ 製薬企業とは何のつながりも一切ありませんよ！

ジェーン・ブライアント：私は製薬企業のことは尋ねていません、私が尋ねているのは、給料はいくらなのか、です。

ブライアン・ディア、叫びながら：どこかのピエロが、どこかのピエロがインターネットで・・・

4チャンネルもサンデー・タイムズ紙も、ディア氏がGMCの審理に160日間出席した間の賃金を支払っていないことを確認した。では誰が？

アンダーソン・クーパーがブライアン・ディアを紹介したときの模様は、以下のようであった。

ロンドン・サンデー・タイムズ紙の調査ジャーナリスト、ブライアン・ディア氏です。

CNN とアンダーソン・クーパー360 はよくやりました。ディア氏が実は誰なのか、これからご紹介しましょう。

2. ブライアン・ディアがアンドリュー・ウェイクフィールドの調査を開始したとき、彼は製薬業界の隠れみの団体の支援を受けていた

アンダーソン・クーパー360 では、次のような会話が合った。

クーパー：ところで彼 [ブライアン・ディア] は実は、これとの経済的な利害関係は一切ない、あるいはこれと利害関係がある人との経済的つながりは一切ないことを保証した文書に署名しているのです。

ウェイクフィールド：それはまた面白いことをおっしゃいますね、というのも、彼は調査に際して英国製薬業協会の支援を受けていました。英国製薬業協会は製薬業界から直接に、製薬業界のみから資金提供を受けています。ですから・・・

クーパー：彼によると資金提供を受けていないと・・・過去 3 年間にわたり、これと利害関係のあるどのような関係者からも資金提供は受けていないそうです。

アンダーソン・クーパー、「過去 3 年間」というのは正確なことですか？ ディアがアンドリュー・ウェイクフィールドに関する記事を最初に発表したのは 7 年前ですから、なぜ、過去 3 年ではなくて過去 7 年のことをディアに尋ねなかったのですか？ ディアに、「私は先月誰も殺していません」といった文書に署名させることだってできますよ、ばかげている！

アンドリュー・ウェイクフィールドが言ったとおり、ディアが当初、アンドリューの調査のための資金を英国製薬業協会の隠れみの団体から受けていたのは事実である。信頼できる筋によると以下のとおりである。

「ディアは、英国製薬業協会が所有し、支配している会社、Medico-Legal Investigations (MLI) から無償の支援を受けていました。私はその証拠書類も持っています。MLI は英国医事委員会に医師を提訴させることを専門にしています。そしてあの医師が提訴され、その後、2004 年 2 月のサンデー・タイムズ紙で彼が発表したというわけです。」

3. 彼のごく最近話題になった記事は、ウェイクフィールドを黙らせる理由を数多く持っている英国医師会から資金提供を受けていた

アンダーソン・クーパーは、CNN でアンドリュー・ウェイクフィールドを厳しく追及する中で次のように述べている。

クーパー：しかしこれは、単に一人だけのことではありません。これは・・・これは英国医師会誌に発表されたのです。

誰もが知っているように、英国医師会誌（BMJ）に掲載されたディアの記事はアメリカのメディアに非常に深刻に受け止められた。しかし、BMJ がどのような性質のものか、いったい何人の記者が知っているだろうか？ BMJ 自体のホームページから次のようなことが分かるまでに時間はかからなかった。

- BMJ は、医薬品や非医薬品の広告を掲載することで広告収入を得ている。
- BMJ グループ [英国医師会誌の出版元] は、英国医師会の完全所有子会社である。

英国医師会とは何か？ 英国医師会のホームページによると、

「医師と医学生のための独立した労働組合・専門職団体で、会員は世界中で 14 万人を上回る。」

（CNN とアンダーソン・クーパーはよく分かっていないのが明らかなため）分かりやすい英語で説明しよう。

英国医師会誌はその資金の大半を、製薬企業に販売する広告から得ている。さらに BMJ は、英国の医師全員を代表する労働組合である英国医師会（BMA）に 100%所有されている。英国は社会診療（医療の国家管理）となっており、この点では米国とまったく異なる。医師は全員 BMA に所属し、BMA は英国政府との給与交渉を含め、医師らの業務のあらゆる側面で医師の利益を代表している。

BMA は、医師を代表する非常に強力な労働組合である。自閉症の原因がワクチンということになれば、BMA 会員にとって非常に困ったことになる。そこで BMA はブライアン・ディアに金を払い、自分たちの業界誌に記事を書かせた。

アンダーソン・クーパーは、「彼 [ブライアン・ディア] によると資金提供を受けていないと・・・過去 3 年間にわたり、これと利害関係のあるどのような関係者からも資金提供は受けていないそうです」と報告している。しかし、英国医師会に 100%所有されている英国医師会誌は、（話題になったごく最近の）記事を書くようにとブライアン・ディアに報酬を支払っている。ブライアン・ディアは次のように述べている。

ディア：私はあの記事を書くよう英国医師会誌から依頼されました。それがジャーナリストの仕事ですから。

よく言うよ！

4. GMC にアンドリュー・ウェイクフィールドを提訴したのはディアである一本末転倒もはなはだしい！

前記で私は、ディアが当初、Medico-Legal Investigations と呼ばれる英国製薬業協会の隠れみの団体の支援を受けていたと述べた。消息筋によるとこの団体は「英国医事委員会に医師を提訴させることを専門にしている」。

もう一度、消息筋によると、

「ディアによる 2004 年 2 月 25 日の GMC への最初の告訴状の時期は、ディアがウェイクフィールドを非難する記事を 2004 年 2 月 22 日のサンデー・タイムズ紙に発表してから間もなかったことが分かります。ディアはあの記事を書く前に、医師を GMC に起訴させることが専門の英国製薬業協会の隠れみの団体、Medico-Legal Investigations Limited に相談し、無償の助言と支援を受けていました。」

よく知らない人のためにご説明すると、英国医事委員会は全医師に対する英国の医師免許登録委員会である。開業する能力を付与すると共に、医師免許を剥奪することもできる。

ディアの最初の告訴状 2 通の原本は、ここ ([HERE](#)) とここ ([HERE](#)) で閲覧できる。いずれも裁判文書 ([HERE](#)) から転写したように議論の余地のないものである。明確に以下のように記述されている。

「あの番組が放送されるかなり前に、ディア氏は被告 [アンドリュー・ウェイクフィールド] について GMC への告訴状を作成していた。」

この特定の事実の真相を明らかにしてみよう。英国医事委員会は、アンドリューの医師免許を剥奪した組織である。同委員会の決定によって 1998 年のランセット誌論文が抹消され、この決定が、ごく最近のマスコミの大騒ぎに直接つながった。

しかし、1998 年ランセット誌論文の 12 症例の親のうち一人としてアンドリュー・ウェイクフィールドとの間に問題がある親はいない。彼が勤務していたロイヤル・フリー・ホスピタルの誰も、アンドリュー・ウェイクフィールドとの間に問題はない。ウェイクフィールドの論文を掲載したランセット誌も、彼の研究に対して問題を提起してはいない。

ウェイクフィールドの研究について GMC に告訴状を提出することに関心があったのは英国中でただ一人、GMC に医師を通報することが専門の団体、製薬業界の隠れみの団体に雇われていたジャーナリスト、ブライアン・ディアであった。しかも彼が告訴状を提出したのは、ウェイクフィールドの研究がランセット誌に掲載されてから 6 年もが経過してからである。

ブライアン・ディアがあのお話を作り、今ではそれについて報告しているが、アメリカのメディアは、実際に何が起きているのか遠くてよく分かっていない。ジャーナリストの皆さん、怪しいと感づくのはそんなに難しいことですか？ アンダーソン・クーパーはこれについてブライアン・ディアに質問することができなかった。その理由は、GMCがどういう組織か彼には分かっていないからであり、GMCの審理につながった告訴状を提出したのがディア自身だったことや、このようなことすべてがどんな影響を及ぼすかも分からなかったからである。

前述したように、ブライアン・ディアがGMCにウェイクフィールドに関する最初の告訴状を提出したのは証拠からも明らかである。実際の告訴状もあるし、英国の裁判所で述べられた内容の文書もそれを証明している。この情報に向き合ったとき、ブライアン・ディアはいったい何と言うだろうか？

ジャーナリストのジェーン・ブライアントは、2008年のGMCの審理に関してブライアン・ディアにインタビューしたときの模様を以下のように話している。

もしディアが被告で、もしディア自身がGMCに提訴されていたら、どうなると思いますかと尋ねると、ディアは非常に激高しました。はじかれたように立ち上がり、私に詰め寄って威嚇し、怒鳴りながら私の目の前に指を突きつけました。

ブライアン・ディア：「違う！ 私は提訴などしていない！ 私は原告ではないという書状をGMCからもらっている！ もう一度今の質問をしてみろ！ そうすれば答えてやる！」

次はジャーナリストのマーティン・ウォーカーの話である。

「GMCの審理は、裁判手続の濫用という点でロースクールの学習モジュールの一部だと言えます。初めからそうで、あれほど濫用するのはGMCだけです。たった一人のプロのワクチンジャーナリストが、MMRの安全性を疑った研究を発表した3人の医師に対し、GMCの歴史でも最大の起訴を開始することができ、医学と法律がからむ訴訟手続を自由自在にこなすことなど不可能です。製薬業界のみを資金源とする機関が、GMCに告訴するこのジャーナリストを助けることなどあり得ません。最後に、そしておそらく最も面食らうでしょうが、国会制定法のもとに強大な法的権限を付与されている組織、英国医事委員会が、政府のワクチンプログラムを保護するために5年もの期間にわたり起訴を長引かせ、政府や製薬業界と結託して動くのは不可能です。」

5. ディアは、これら全体の中で引き立て役ジャーナリストのようであり、ウェイクフィールド調査の本当の扇動者ははるかに強大なのかもしれない

別の消息筋によると、

「ディアは一人で活動していたのでもありません。ディアは、英国国会議員でグラクソウェルカムのフェローであり、英国医師会の現役会員でもあるエヴァン・ハリス博士と協力して活動しており、ハリスは早い段階からディアと共にランセット誌の事務所に行っていました。後にランセット誌の主筆、ホートン博士が自著『MMRの科学とフィクション：ワクチン危機を探る』にこれらの出来事を記録しています。これはハリスが議会で間接的に確認していますし、後にも、英国ロンドンでのウェイクフィールドに対する GMC の審理にハリスがディアと共に出席したことからも確認できます。」

この騒ぎ全体を追跡しており、私と同じように考えているとしたら、ここが「ああ、そういうことか、読めたぞ！」と思うポイントである。

すべてをほんの少しだけ醜悪にするために加えると、AoA（ウェブサイト、Age of Autism [自閉症の時代]）の編集者、ジョン・ストーンはエヴァン・ハリスについて次のように話している。

「2004年3月の英国下院でのMMRについての論争で主張した議員、エヴァン・ハリスは、父親フランクが最近退任した小児科教授であるが、1992年9月のUrabe株を含むMMRワクチンの回収に至った期間である1990～1992年には、フランクが医薬品安全性委員会の委員（名士録に委員任命が掲載されている）ではなかったことを明らかにしています。」

この場合も分かりやすい英語で説明すると、

エヴァン・ハリスは1997年から2010年まで英国議会議員（米国の連邦議会議員に相当）であった（ごく最近の選挙で落選している）。彼はオックスフォード大学医学部を卒業した医師でもある（医師から政治家に転身したビル・フリストに似ている）。彼の父は医師で医学部教授でもあり、欠陥MMRワクチンの回収騒ぎの期間中、英国医薬品安全性委員会の委員であった。エヴァン・ハリスは議会での演説で次のように述べている。

「MMRの安全性に関するエビデンスと科学的コンセンサスは圧倒的なものです。MMRには重要な安全性問題が認められないとした優れた研究が数多くあります・・・」

今となってみれば、すべてつじつまが合う。

6. 2004年サンデー・タイムズ紙のディアの最初の記事の直前に、ランセット誌のCEOがグラクソの役員になっている

GMCの審理に関するJABSの説明資料から

「さらに非常に不満な点は、ホートン博士が、ウェイクフィールド医師を非難した2004年2月のサンデー・タイムズ紙の記事のわずか数ヵ月前の2003年夏に、自分の上司である

リード・エルゼビアのCEO、クリスピン・デービスが、MMR 裁判の被告であるグラクソ・スミスクラインの社外取締役役に任命されたことを決して明かさなかったことである。」

分かりやすい英語で説明すると、リチャード・ホートン博士はウェイクフィールドの研究を発表したランセット誌の主筆であった。ホートンは特にウェイクフィールドの研究に関しては健忘症を発症したようであり、ウェイクフィールドを事実上、スケープゴートにしたのである。一部のマスコミが描く像に反して、医学誌は営利を目的としており、リード・エルゼビアは他の多くのジャーナルと共にランセット誌も所有している企業である。そのリード・エルゼビアのCEOが2003年夏に、世界最大のワクチンメーカーであり、MMRのメーカーでもあるグラクソ・スミスクラインの取締役役になったのである。

ランセット誌とグラクソとのこのつながりは、思い付くのが難しくないことを指摘しておきたい。アンダーソン・クーパーはブライアン・ディアにどんな質問をしたか？ 次のとおりである。

クーパー：ご存知のように、あなたの雇い主、ロンドン・タイムズ紙の所有者であるジェームズ・マードックは、MMRのメーカーであるグラクソ・スミスクラインの取締役役になりました。それは2009年のことでしたね。

ディア：ええ。(雑談)

クーパー：それは・・・それは利益相反だと指摘する人もいます。

ディア：そんなことはない。ばかげている、まったくばかげている。

アンダーソン・クーパーに対する注釈：間違っただけ、年度も間違っている。

ああ、またここでも、ディアへのインタビューでロンドン／サンデー・タイムズ紙を「あなたの雇い主」だと言っている。つまり、ディアがサンデー・タイムズ紙の社員であることをほのめかしている、そうではないのに。

7. 当初、ディアに報酬を支払ったサンデー・タイムズ紙の主筆も、重大な利益相反状態にあった

いつになったら終わるのか？

「ディアはサンデー・タイムズ紙の主筆、ポール・ニューキから報酬を支払われてウェイクフィールドの調査を行いました。ポール・ニューキは、MMR や三種混合ワクチンが導入されたとき、医薬品安全性委員会の委員であったジョージ・ニューキ教授の息子です。」

8. ディアは GMC の審理よりずっと前に、ランセット誌論文になった 12 人の子どもの医療記録を入手しているが、これは明らかに違法行為である

英国法はいずれも、医療情報の機密性に関しては等しく強力である。ランセット誌論文の 12 人の子どもの親たちは、許可したことは一度もないのに、ブライアン・ディアがどうやって子どもの医療記録を入手したのか分からず、長い間抗議の叫びを上げてきた。以下は、ランセット誌論文の 12 人の子どもの親の一人から、最近 48 時間内に私に宛てたメモである。

「私はブライアン・ディアのインタビューは受けていません。私はワクチン被害家族を代表してメディアに出て、私の子どものことは話していますが、秘密の医療情報を話したことは一度もありません。MMR ワクチンの後の彼の反応についてのみ話しています。ブライアン・ディアは自分の医療メモに書いてあるから医療情報を知っており、しかも GMC の審理が始まるずっと前から知っていたのですから、GMC の審理から情報を得たとは言えないはずです。」

以下はもう一つの意見である。

「ブライアン・ディアは、ランセット誌論文の子どもたちの名前や、ロイヤル・フリー・ホスピタルに入院した日付を、GMC の審理のずっと前に、誰でも見られる自分のホームページ ([on his web - site](#)) に掲載していました。私たち親の中にはメディアに登場している者もいるからかまわない、というのが彼の見解でした。ここで問題になるのは、ブライアン・ディアが知らせるまで、私の子どもがランセット誌論文の 12 人の子どもの一人であることを、私はメディアに知らせていなかったという点です。私の子どもの医療記録を私の許可なしに、どうやって彼が入手したのか尋ねる電子メールを、何度となく彼に送信しました。彼が私や私の家族にインタビューしたことはなく、この質問にも回答はありません。

ブライアン・ディアは私たちの子どもに関する秘密情報を入手したと私は考えており、どうしてそんなことが起きたのか知りたいのです。彼は電子メールで、ロイヤル・フリー・ホスピタルから秘密文書をどうにか探り出したのだと言いました。次の質問には、ブライアン・ディアは答えていません：フリーランス（または他のいずれか）のジャーナリストが、親の同意を得ることもなく、研究論文の著者らの同意を得ることもなく、プライバシー保護委員会や院内倫理委員会の承認を得ることもなく、研究ファイル原本を閲覧し、完全な身元も分かり検査結果もすべて分かる子どもたちの、ロイヤル・フリー（または他のいずれかの病院や開業医）の医療ファイルと比較するための手段で、英国の法律によって許される手段も、ブライアン・ディアが BMJ に知らせていただけませんか？」

以下は、彼のごく最近の記事に関して、ランセット誌論文の 12 人の子どもの親が最近 BMJ に対し告訴したものである。

「私は、私の子どもやその他の子どもたちについてのこの記事を発表することをブライアン・ディアに許可したBMJを、正式に告訴しています。腸疾患に関して何の資格もないジャーナリストがこのような推定をすることを、BMJが許可しているのですか？ 私の子どもは毎日腸が悪く、ひどい痛みです。子どもたちの腸疾患は年々悪化しており、腸疾患が専門の他の医師もこの疾患を確認しました。ウェイクフィールド医師、ウォーカー・スミス教授、それにサイモン・マーチ教授でなかったら、私の子どもはどうやって切り抜けていたかと思うと恐ろしくなります。ジョン・ウォーカー・スミス教授はちょうど先週、欧州小児科・胃腸病学・肝臓学・栄養学会から功労賞を受賞しました。彼はハーバード大学医学部のアラン・ウォーカー教授に推薦され、委員会は満場一致で合意しました。ブライアン・ディアにはどんな資格があるのですか？ ブライアン・ディアは何人の命を救いましたか？ そもそもブライアン・ディアは、私にインタビューするだけの礼儀もわきまえていないのに、私の子どもの医療情報を知っていると自慢しています。ブライアン・ディアの記事を支持するどのような情報をBMJは持っているのですか？ 完全な開示を要求します。」

9. ディアは最近のワクチンの一括訴訟で、被告である米司法省を積極的に支援した

以下はブライアン・ディアが、自閉症に関する一括訴訟で被告の米司法省を自分が支援していることについて、誇らしげに述べたものである。

「私は、GMCのように米政府が、セディージョでの訴訟提起に際して、私のホームページから数多くのエビデンスを借用し、裁判所でも一部を示すなど、私の援助を求めてくださったことを非常に誇りに思っています。これには私も驚きました。米政府は他の政府や業界とも高度な接触があるだろうから、望むもののほとんどを入手できるだろうと考えていたからです。しかし私が帰宅してみると、私が持っている文書を求める司法省からの電子メールが来ていることが何度かあり、翌日にはそれが裁判所で使用されていました。（原告が土壇場になって主張を変えることへの対応は）司法省の勤と経験によるところもありました。事実、オリリー社の研究所の業務に関する重要な文書を提供したことを思い出します。司法省がこの文書のことを知ったのは、審理のわずか数週間前だったようです。これによってバスティンとチャドウィックのことが最近明るみに出たのです。文書を提供したのは私ですから、嬉しく思っています。自慢するためにこんなことを言っているのではありません、ただ、ワクチンの安全性について抗弁する背後にはあらゆる種類の共同行為があるのではないかと考えていましたから、なぜ政府や規制当局はこんなにまとまりがないのかと。だから一介のジャーナリストがみんなより一歩先んじることができたのだと思います。」

ブライアン・ディアが米政府を支援することに問題はるか？ 彼が持つ権利がないはずの秘密の医療ファイルを共有するなら、問題である。

（備考：ディアが司法省と通信していたことを示す電子メールを情報公開法に基づいて入

手している。これについての詳細は後日紹介する。)

10. ランセット誌論文の 12 人の子どもの親はブライアン・ディアを恐れ、彼は狂っていて危険で、家族に害を与えるとみなしている

私は直前 24 時間の間に、英国に住んでいるランセット誌論文の 12 人の子どもの親と直接話した。彼らは、これまでの顛末が米国でどれほど大きく取り上げられているか知らなかった。英国ではほとんどニュースにもなっていないからである。独身で子どものいないこの男、CNN で見るこの男を、彼らがなぜ恐れるのか私には不可解であった。彼らの恐れがどこから来ているのか、それをある程度説明するものが以下である。

「起きたことの一つは、代理人によるミュンヒハウゼン症候群の告発です。彼らが制度に基づいて要求したら、自分の子どもをいつでも連れて行かれると親は考えましたし、口実はいくらでもありました。成人した子どもが親に会いたくないと言っている、と告げられる可能性もありました。それに英国は、中央で管理することが多い国です。つまり、行政権の乱用やサービスを提供しないことなどを通じて人々の生活を悲惨なものにすることが簡単なのです。一般に、人は制度を疑うことなど考えず、制度に簡単に屈すると思います。」

以下はもう一つの意見である。

「ディアの種々の違法行為のすべてが、国のひそかな支援を受けて起きたような社会に私たちが住んでいることも、忘れてはいけないと思います。」

ああ、私は『ゴッド・ブレス・アメリカ』を今すぐ歌う必要があるようだ！ ブライアン・ディアよ、星条旗の国へようこそ。ここではまだ人は最終決定権を握り、報復を恐れることなく自分の考えを自由に口にすることができる。

以下は、ジャーナリストのジェーン・ブライアントがディアについて話したものである。

「この不祥事から合理的に到達できる唯一の結論は、ジャーナリスト、ブライアン・ディアが真実を一部どころか相当に隠しているということです。彼はたちの悪い攻撃的な男で、まったく手に負えず、ワクチン支持を働きかける圧力者としての自分の目標に向かってまっしぐらに進んでいます。2007 年 3 月 27 日の抗弁開始時に、英国医事委員会の事務所の外で、ディアに関して似たような出来事がありました。ワクチン被害による自閉症の子どもたちの親に対し、威張りちらしながら説教しているところを写真に撮ったのですが、親たちはディアを恐れるあまり、その写真を公開することにもおびえています。」

以下は、ランセット誌論文の 12 人の子どもの親が住んでいる地区の一国会議員へのブライアン・ディアからの電子メールである。

「私が出会ったランセット誌論文の12人の子どもの親について言えば、彼女はいらいらするほど執念深く、自閉症の原因がMMR ワクチンであることを示す証拠があるという間違った主張をしているアンドリュー・ウェイクフィールド医師に代わって、何かをたくらみ続けていることは明らかです。彼女の動機は、感情的な慰めと実質的な経済上の利益の両方であるように私には見えます。私の見解では、ランセット論文のあの親は、根拠もなくMMR に対する恐怖感をあおってきた最近数年の自分の行動に関して、自身の良心と向かい合う必要があります。」—ブライアン・ディアの電子メール、2006年10月23日

11. ニュースで大々的に取り上げられたディアの最も最近のBMJでの報告が、不可能なことを根拠にしていることをマスメディアは理解すべきだ

昨日のAoAへの書き込みから。

「1月6日の英国医師会誌で発表されたジャーナリスト、ブライアン・ディアの最新の記事の中心にあるのは、ウェイクフィールド医師が、新たな症候群を特定したという自分の主張を裏付けるために、患者の病歴に関する数多くの事実を改ざんしたという主張です。

ディアとBMJが指摘できなかった点は、英国ロンドンのロイヤル・フリー・ホスピタルの、ウェイクフィールドのほかにも12人の他の専門医によるチームの研究だったのですから、ウェイクフィールド一人で結果を出したのではないということのみならず、ウェイクフィールドにせよ誰にせよ、子どもたちの過去の臨床記録を改ざんするのは不可能だということです。なぜなら、臨床記録を持っている者はロイヤル・フリー・ホスピタルには誰もいないし、臨床記録を保有することは通常の慣行ではないからです。ですから、病歴を改ざんするような不正行為が生じるはずもありません。そんなことは不可能だからです。」

分かりやすい英語で説明すると、英国では、地元の医師から、アンドリューが勤務していたような大病院に紹介されても、前の医師の記録はその大病院には移転されないのである。

GMCの審理の際、GMCは子どもたち全員の「地元の医師」の記録を入手することができた。ロイヤル・フリー・ホスピタルは高度な病院であるため、また、過去の記録は一切なかったため、独自の診断を下したのである。

GMCの審理を通じてディアは、(ウェイクフィールドやそのチームが閲覧したこともない)子どもたちの地元の記録を入手し、相違点を見つけると「不正行為」として報告したのである。この微妙な差異は紛らわしいが重要なことであり、英国の医師なら誰でも、これがどういうことなのか分かるはずである。米国人は医師を変えるとき、自分の医療記録を新しい医師のところに持って行くのが通常である。

ある米国人弁護士から。

「地元の開業医とは異なる診断を下したとロイヤル・フリーのチームを非難するのは、メイヨークリニックが地元の医師とは異なる新規で珍しい疾患の診断を下すたびに、医療上の不正行為をはたらいたと非難するようなものです。最後の依り所として人がメイヨーに行くのもそこに理由があり、英国の親たちがロイヤル・フリーに行ったのもそこに理由があります。」

そして最後に、AoA への書き込みから。

最新のこの話への私の最初の反応は、「MMR の後に自閉症状を示し、重症の腸疾患になった子どもたちについて、いったいなぜウェイクフィールドが作り話をする必要があるのですか？ そんな子どもたちが履いて捨てるほどいるというのに！」

12. アンダーソン・クーパーが米国人に断言したにもかかわらず、ブライアン・ディアはランセット誌論文の 12 人の親をインタビューしていない

以下は、アンダーソン・クーパーがアンドリュー・ウェイクフィールドに言った内容である。

クーパー：ブライアン・ディアは、患者と話しました、あなたの当初の研究にあった患者の親たちと話しました。それで彼は、あなたが調査したと主張する 12 症例の中で、彼の言葉を引用すると、「不実表示または改ざん」されていなかったものは 1 例もないことを発見しました。12 症例の医療記録の中で、ジャーナルに発表された記述、診断あるいは病歴と完全に首尾一貫するものは 1 例もなかったそうです。あなたの当初の研究の親たちの一部は、自分の子どもの病歴についてあなたが主張したことは間違っているとっています。この親たちは今になって嘘をついているのですか？

つまり、アンダーソン・クーパーがこの事例について話し合った最初の夜（先週の水曜日）、彼はブライアン・ディアがランセット誌の 12 人の親全員と話したことをほのめかしている（ブライアン・ディアを怖がり、彼は狂っていると考えているあの親である）。この事例についてアンダーソンが話し合った 2 夜目にはブライアン・ディアが出演した。以下は、そのとき彼が話した内容である。

クーパー：12 症例の親たちの誰かと話しましたか？

ディア [しっかり目を閉じたままで]：12 症例のうち、1 家族、2 家族、3 家族に直接インタビューしました。ほかには・・・2 家族を私の代わりに別のジャーナリストがインタビューしました。ですから 12 のうち 5 家族になります。ああ、いや、実際にはほかにも私がインタビュー・・・会話を交わした家族がいますので、かなり多くの数に・・・

これはまた結構な答えだ、ブライアン・ディア。あなたは親たち全員と話したと、アンダーソン・クーパーは24時間前に言ったばかりである。目をしっかり閉じていたのは、数を数えて答えを出さなければならなかったから？

私に分かっているのは次のことである。私を知っている親たちの中で、自分の子どもの病歴についてブライアン・ディアと話したことがある親は一人もおらず、話した親がいることを想像できる親も一人もいない。

ランセット誌論文の12症例の中でまさに第1番目の親にブライアン・ディアが事実、インタビューした際、彼は自分を「ブライアン・ローレンス」と称し、児童番号第2番の親に自分の本当の身元を決して明かさなかったことも確認した。ブライアン・ディア、あなたは人をだまして自分と話をさせるために、いつも偽名を使っているのですか？ どうなんでしょう。

以下は、ランセット誌論文の12人の親の一人が、ブライアン・ディアによる不実表示の事実を彼に突きつけるために送信した電子メールである。

送信者：ランセット誌論文の12人の親

送信日：2010年4月16日

宛先：@briandeer.com

件名：[私の子ども]

ブライアン、

あなたはなぜ[子どもの名前]が腸疾患ではないと言うのですか？ あなたは医者ではないし、腸疾患についての専門知識も持っていません。ウェイクフィールド医師、サイモン・マーチ教授、ウォーカー・スミス教授は医者で、専門知識も持っています。

あなたが私をインタビューしたことは一度もなく、[子ども]の状態について、あなたは何も知りません。

あなたは[子どもの]健康を危険にさらしているのですから、どうかもう止めてください。

[ランセット誌論文の12人の親]

以下は、(腸疾患ではないとディアが主張する)子どもの腸疾患について、ランセット誌論文の12人の親の一人が送信した私用の電子メールである。

「私によく分かっていることは、[子どもの]体が今になっても、どんな食べ物も受け付けないことです。ステロイドが影響しているのかどうか様子を見たいと医者は言い、味付けしていないゆでジャガイモを少量だけ試してみるように言いました。数分も経たないうちに吐いてしまい、それだけでなくひどく気分が悪く、夜も痛くてほとんど眠れず泣いています。何もしてあげられない私を叩いて怒ります。子どもが話すことができ、どこが痛いのか言えたなら、子どもの痛みが分かって胸の張り裂けるような思いになるのですが、子どもは話すことができません。ちゃんと食べていた頃から、今ではもう 1 年になります。」

13. アンダーソン・クーパーはブライアン・ディアのことを「数々の賞を受賞した独立ジャーナリストである」と言っているが、彼はそのどちらでもない

ブライアン・ディアが独立ジャーナリストではないことを、この記事で確信してもらうことを願う。

賞に関しては、彼のかなり自己愛的で（写真ギャラリーを見て欲しい！）変わったホームページ ([website](#)) で、1999 年に受賞した賞を確かに一つ、引用している。これは英国報道賞 ([HERE](#))：年間最優秀記者--サンデー・タイムズ紙、ブライアン・ディア、というものである。

数々の賞？ 独立？ いいかげんにしてくれよ！

結論

何をか言わんや。私は自分が知っていることをすべて話した。実際に不正をはたらいたの誰か、結論は自身で下して欲しい。これが英国ではなぜニュースにならないのか？

私はこの情報を、アンダーソン・クーパー360のプロデューサーとCNNのメディカルエディターに個人的に知らせた。また私は、金曜日時点で、ランセット誌論文の12人の親をCNNその他に個人的に紹介した。

彼らがランセット誌論文の12人の親にインタビューし、アメリカに英国側の状況を見せることを願っている。この顛末は、これまで見たこともないようなごまかし・糊塗策である。不意打ちをくらってまずいところが見つかったら、CNNその他多くは自分で自分の後始末をするのか？ それとも親たちに対処を任せるのか？

インターネット、AoA、そして真実を話すことができたことに感謝する。

J・B・ハンドリーはジェネレーションレスキュー ([Generation Rescue](#)) の共同創設者である。

<http://www.ageofautism.com/2011/01/the-big-lie-wakefield-lancet-paper-alleged-fraud-was-not-possible-for-anyone-to-commit.html>

“There is no use trying,”
said Alice; “one can’t
believe impossible things.”
“I dare say you haven’t had
much practice,” said the
Queen. “When I was your age,
I always did it for half an
hour a day. Why, sometimes
I’ve believed as many as six
impossible things before
breakfast.” -Lewis Carroll

大嘘ーランセット誌のウェイクフィールド論文を詐欺と主張するのは不可能

「やってもむだよ」と、アリスは言いました。
「人間は不可能なことは信じられないものよ。」
「あなたはまだ信じる練習が足りないんじゃないかしら」
と、女王は言いました。「私があなたの歳の頃、
一日30分間練習したわ。そうね、朝食の前に、
不可能なことを6つも信じたこともあったわ。」

ールイス・キャロル

編集局長の注記：以下は英国のチャイルドヘルスセーフティ ([ChildHealthSafety](#)) からの投稿である。チャイルドヘルスセーフティのサイトには意見を投稿することができ、ここにも投稿できる。このウェブサイト ([Here's a link](#)) をメディア関係者、家族、友人と共有してもらいたい。スクロールダウンすると、米国のワクチン裁判で、被害を受けたアメリカの子どもたちに対する支払いが命じられたことなど、ワクチンに関する被害、科学、メディア、政府の関心について詳細を読むことができる。アクセスに感謝する。

1月6日の英国医師会誌で発表されたジャーナリスト、ブライアン・ディアの最新の記事の中心にあるのは、ウェイクフィールド医師が、「新たな症候群を特定したという自分の主張を裏付けるために、患者の病歴に関する数多くの事実を改ざんした」という主張です。

ディアとBMJが指摘できなかった点は、英国ロンドンのロイヤル・フリー・ホスピタルの、ウェイクフィールドのほかに12人の他の専門医によるチームの研究だったのですから、

ウェイクフィールド一人で結果を出したのではないということのみならず、ウェイクフィールドにせよ誰にせよ、子どもたちの過去の臨床記録を改ざんするのは不可能だということです。なぜなら、臨床記録を持っている者はロイヤル・フリー・ホスピタルには誰もいないし、臨床記録を保有することは通常の慣行ではないからです。ですから、病歴を改ざんするような不正行為が生じるはずもありません。そんなことは不可能だからです。

ディアの記事は、以下の 2 つの事項の間に食い違いがあるという自分の主張に重点が置かれています。

- ロイヤル・フリー・ホスピタルで書かれた臨床病歴
- 国民健康保険医／一般開業医、および様々な家庭医その他の小児医療従事者（例：巡回保健婦）により数年間にわたって書かれた当該小児患者のその他の記録

ディアと BMJ は、以下の点を明らかにしていません。

- 過去の病歴がロイヤル・フリーのチームに提供されないのは一般的で通常の慣行であること
- 病歴を新たに書くのは通常の慣行であり、ロイヤル・フリーのチームに提供されるのは、過去の関連臨床歴を記載した、患者の家庭医からの紹介状のみであること
- 子どもの病歴は、親による説明を基に書かれること
- 親は病歴を説明する際、国民健康保険医による記録やその他の小児記録・医療メモの前に開業医が記入していることがある内容 [おそらくより重要なことは記入していない場合] を親は知らないのが普通であること
- [数多くの個人が数年間にわたって作成していることがある] これらの記録やメモは信頼できない場合があり、したがって新たに臨床歴を作成する必要があること
- ロイヤル・フリーでは、当該分野の専門医が、一般開業医その他による過去の診断に依拠することなく（その理由は明らか）、新たに、かつ独自に診断を下したこと

さらに、ロイヤル・フリーの臨床歴はウェイクフィールドが作成したのではなく、当時、世界有数の胃腸病専門医であったジョン・ウォーカー・スミス教授が作成しました。スミス教授も起訴され、英国医事委員会（GMC）により有罪と判示され、英国高等法院に上訴しています。

これらすべての経緯で何よりもまず、GMC [被告の有利になるように証拠が提示される法廷と考えてよい] の審理で GMC の検察官に呼び出された親はいないため、親には、ディア氏の主張に答える機会はなく、彼の言うことに異議を申し立てたり、都合のいい内容だけを選んだような彼の主張に対して適切かつ十分な調査が行われたのか、また、厳しい追及・独立した調査の対象とすべき現在行われている主張に対して異議を申し立てる機会は

一切ありませんでした。

さらに、ウェイクフィールド医師に対する GMC の裁判での証人の一人は、ウェイクフィールド医師の論文の基盤となった病理組織学的所見の妥当性を確認した書面を英国医師会誌 (BMJ) に送り、サンデー・タイムズ紙のジャーナリスト、ブライアン・ディアが彼女の証拠をいかに誤って伝えたかを明らかにしています。彼女、ケンブリッジ大学アデンブルックス病院・コンサルタント組織病理医のスーザン・E・デーヴィス医師は、ブライアン・ディアによる BMJ の記事に関して、BMJ で以下のように述べています。

病理組織学的所見に関して事実が一部誤って伝えられ、研究過程に対する理解が不足している上に、次のような重要な所見もあった。「陰窩膿瘍形成を伴う盲腸の活動性炎症を、小児に通常のもので臨床胃腸病専門医がみなした可能性がある (1) が、これは病理医が記録しておくべき重要な所見である。」「病理組織学的所見を評価する際の注意 ([Caution in assessing histopathological opinions.](#))」 BMJ 迅速対応、2010 年 4 月 30 日。

これらの誤りの中にあるもう一つの重要な欠陥は、もしあの論文が欺瞞だというなら、今になって所見が米政府や主流医学に受け入れられているのはなぜか、という点です。

それをどこよりも明らかにしているのが、英国メディアのみに配信される 1 月 5 日付け全米自閉症協会 (NAA) のニュースリリースです [[その全文と全参考資料を以下に貼り付けます](#)]。

要するに、NAA が英国向けニュースリリースで述べているのは、1998 年のランセット誌論文の結果が捏造であるというなら、ウェイクフィールド医師の研究の正しさがなぜ今になって証明されたのか、ということである。

- 米政府の保健当局者は、(MMR ワクチンだけではない) ワクチンが自閉症様症状の原因であることを認めている；
- 米連邦裁判所は、ワクチンが原因で自閉症様症状が生じた子どもたちに多額の賠償金を支払うよう命令した；
- 主流の大手医学誌に独立して発表された論文は、1998 年にウェイクフィールド医師が発見したのとまったく同様に、自閉症児は重篤な腸疾患に罹患しているが、自閉症児でない小児に腸疾患は認められないことを確認している。

1 月 7 日掲載の記事も参照。

[CNN のインタビュー—アンドリュー・ウェイクフィールドが自閉症に関する論文捏造の主張に答える \(CNN Interview – Andrew Wakefield Replies to Autism Fraud Allegations\)](#)

ニュースリリースー即日発表ー反論

2011年1月5日ー米ミズーリ州ニクサ／2011年1月6日（金）に発行される英国医師会誌は、小児におけるワクチン、腸疾患、自閉症様症状の間の相関の可能性が「手の込んだ捏造である」と示唆しているが、この示唆は以下によって直接的に否定される。

[完全な詳細については以下の「編集者への注意事項」および添付の PDF ファイル ([pdf attached](#)) を参照]

- 米国営ニュース放送のテレビで米連邦機関の当局者が、[MMR ワクチンだけではなく] ワクチンは一般に自閉症様症状を引き起こすことがある旨の公的発言を行ったこと
- 最近の主流の研究論文数本が以下を示していること
 - * 政府保健当局者は稀であると主張するが、**自閉症児にはミトコンドリア機能障害が認められることが多く、これによって予防接種後、自閉症様症状に至ることがある。**
 - * 最新の医学研究 [2010年1月の小児科学誌を含む] および数多くの査読済み論文が、他の小児と比較して自閉症児では腸疾患を有する割合が著しく高いことを示している。
 - ・発表されたこの医学的エビデンスは、世界で名高いロンドンのロイヤル・フリー・ホスピタルの医学専門家 13 人の強力なチームによる、1998 年のランセット誌での早期の報告を確認するものである。
- ワクチンが自閉症様症状の原因であることが実証されたと、米連邦裁判所が 3 つの判決（ハンナ・ポーリング、ベン・ツェラー、ベイリー・バンクスに関する訴訟）を下したこと。
 - * [注：これらは、ワクチンを原因とする 1322 例の重篤な脳損傷および疾患に追加されるものである。米国保健資源事業局は前記に対し賠償することを認めた。深刻なワクチン被害を受けやすい子どもたちが未だにワクチンプログラムの対象になっており、こうした子どもたちを救うための策が何ら講じられていないのは問題である。]

全米自閉症協会（NAA）のウェンディー・フルニエは次のように語っている。

「自閉症と診断された子どもたちの一部に重篤な腸疾患が認められることを確認した科

学的エビデンスや、ワクチンとの因果関係のエビデンスが世界中で増えているにもかかわらず、保健当局者や医療従事者はエビデンスを除去し、否定し、隠し続けています」と、NAA 会長、ウェンディー・フルニエは言う。「アンドリュー・ウェイクフィールドに関する話題のほかには収入源がないことが明らかなジャーナリストを通じた英国の医療関係者による最近のこの非難も、そのような否定の継続であり、あるのなら反対のエビデンスを調査すればいいのにそれをせず、自閉症と診断された、現在では世界中で何百万人もの子どもたちの臨床歴を調査することもしていません。」

現在、英国では子どもたちの 64 人に 1 人、米国では 110 人に 1 人が自閉症と診断されている。「子どもたちに増えている自閉症の割合は、もう手に負えない状態です」と、フルニエ女史は言う。「この世界的な流行病にもかかわらず、保健当局者や医療従事者は相変わらず、苦しんでいる子どもたちや家族を直視しようとしません。ワクチンと、自閉症にかかりやすい子どもの自閉症発症との関連は消えません、なぜなら、子どもたちも消えないからです。」

編集者への注意事項

まとめ

- 自閉症様症状の原因はワクチンであることを確認した、米連邦機関の当局者による公的発言
- 自閉症様症状の原因はワクチンであると米連邦裁判所が訴訟判決で認定
- 自閉症様症状と重篤な腸疾患との関連を明確化した 1998 年ランセット誌論文の早期研究が正しいことを確認した研究

米連邦機関・当局者による公的発言

1) 現在、メルク社ワクチン部門社長のジュリー・ガーバーディングは、110 億米ドルの予算を計上する米疾病対策予防センター (CDC) の所長であった時、ハンナ・ポーリング [米国の 9 歳女兒に対し、1 日 9 種類のワクチン接種を原因とする生涯にわたる自閉症様症状に関して、2010 年に 2,000 万米ドルの賠償金認定] の訴訟に関連して、以下のように、ワクチンが自閉症の原因になることがあると、CBS ニュースで確認している。

「ワクチンによって子どもが発熱する可能性があることは、今では誰もが知っています。ですから子どもが予防接種を受けると、ワクチンによって発熱したり、他の合併症が生じます。そしてミトコンドリア障害の素因があると、何らかの損傷が始まるのは確実です。症状の中には、自閉症の特徴を持つ症状もあるでしょう。」

[CNN の健康・医療番組『Dr サンジェイ・ガプタのハウス・コール』 - 自閉症の謎を解く ; CDC 所長と話す ; 自閉症の子どもたちの話 ; 自閉症と老化 \(HOUSE CALL WITH DR. SANJAY](#)

[GUPTA – Unraveling the Mystery of Autism; Talking With the CDC Director; Stories of Children with Autism; Aging with Autism](#)) 2008年3月29日午前8時30分放送

米国医師会雑誌 (JAMA) の新たな論文は、[米国保健当局者の主張に反して] 米国の 9 歳女児、ハンナ・ポーリングのような小児では、ミトコンドリア機能障害は稀ではなく一般的であることを確認している。こうした小児は、

「通常に発達している小児よりも、ミトコンドリア機能障害、ミトコンドリア DNA の過剰複製、およびミトコンドリア DNA の欠失が認められる可能性が高い」ことを、新たな論文は確認している。

[自閉症におけるミトコンドリア機能障害 \(Mitochondrial Dysfunction in Autism\)](#)
JAMA. 2010;304(21):2389-2396. doi: 10.1001/jama.2010.1706

これは、ハンナ・ポーリングの状態に関する査読済み医学論文 (『*Journal of Child Neurology*』に掲載) でも、以下のように確認されている。

細胞エネルギー代謝に障害がある小児が、同時に感染症に罹患したり予防接種を受けると、生後 18 ヶ月から 30 ヶ月の間に自閉的退行に至る可能性が高くなる。

[自閉症児における発達退行とミトコンドリア機能障害 \(Developmental Regression and Mitochondrial Dysfunction in a Child With Autism\)](#) (『*Journal of Child Neurology*』 Volume 21, Number 2, February 2006)

米国当局者は、ハンナ・ポーリングがミトコンドリア機能障害を有していたことを認めた。

2) 予防接種の結果として自閉症様症状が発現する可能性があることは、公にしない和解として米政府が裁判所外で和解したワクチン被害補償の 1322 症例に関連して、CBS ニュースのアンカー、シャリル・アトキソンに対し、米保健資源事業局 (HRSA) が以下のように確認している (資料添付: [attached](#))。

「当局は、脳障害または一般的な脳疾患を発症した小児の症例に対し、賠償しました。脳障害には、自閉症的行動、自閉症、発作など、一連の症状の進行が伴うことがあります。」

[ワクチン問題：例外か先例か？－自閉症関連事例で認定された初めての家族は何千もの中の 1 例に過ぎない \(Vaccine Case: An Exception Or A Precedent? – First Family To Have Autism-Related Case “Conceded” Is Just One Of Thousands\)](#) –2008年3月6日、ワシントン、シャリル・アトキソンによる CBS ニュース

注目すべき点は、ワクチンを原因とする脳損傷の後に極めて重篤な疾患を発症した小児

1322 人に賠償することを、米政府が認めたことである。

3) 保健研究に関し、年間 305 億米ドルの予算支出に対して責任を負う米国立衛生研究所 (NIH) の元所長、バーナディン・ヒーリー博士は、CBS ニュースで次のように語っている。

「公衆衛生担当官は、仮説を不合理として退けるのがあまりにも早急だと思います」と、ヒーリー。

「でも公衆衛生担当官は、自分たちには分かっていると、エビデンスが十分あることは一般市民にそれとなく伝えているし、因果関係がないことは分かっていると語っています」と、アトキソン。

「そうとは言えないと思います、そうとは言えませんよ」とヒーリー。

CBS ニュース—独占：当代一流の博士：ワクチンと自閉症の関連は研究に値する (CBS News Exclusive: Leading Dr.: Vaccines-Autism Worth Study) 政府は関連の可能性を退けるのが早急すぎると語る NIH 元所長—ワシントン、2008 年 5 月 12 日

ヒーリー博士は、ハーバードとジョンズ・ホプキンスで教育を受けた医師、心臓病専門医、そして米国立衛生研究所 (NIH) の元所長である。彼女はジョンズ・ホプキンスの医学部教授を経て、オハイオ州立大学医学公衆衛生学部の教授および学部長を歴任し、米赤十字社社長も務めている。

4) 遺伝が原因で自閉症様症状が大幅に増加するはずがないことは、年間 305 億米ドルの予算を計上する米国立衛生研究所の第 16 代目現所長であり、ヒトゲノムプロジェクトを主導した一流の医師・遺伝学者であるフランシス・コリンズ博士によっても確認された。

コリンズは、米国立ヒトゲノム研究所所長であった 2006 年 5 月に、糖尿病、小児喘息、肥満症、および自閉症のような慢性疾患の最近の増加は、環境 [外部] に原因があるに違いない、純粋に遺伝 [内部] を原因とする疾患であるはずがないことを、連邦議会下院で以下のように公に確認している。

「ヒト遺伝子プールの大きな変化が原因で、糖尿病、小児喘息、肥満症、あるいは自閉症のような慢性疾患が最近これほど増加するはずはありません。ヒト遺伝子プールが変化するには非常に長い時間がかかるからです。食事や運動など環境の変化が原因に違いありません。環境が変化すると、遺伝的に素因がある人は疾患を発症することがあります。したがって GEI (遺伝子と環境イニシアチブ) では、環境毒素・食事摂取・身体活動を測定するための革新的技術／センサーにも投資し、ゲノミクスやプロテオミクスの新たなツールを用い、代謝率を理解して、このような影響に対する個々人の生物学的反応を評価していきます。」

フランシス・S・コリンズ、M.D., Ph.D.

[連邦議会下院委員会でのエビデンス提示](#) ([Evidence to US House of Representatives Committee](#)) 2006年5月

米連邦裁判所の訴訟事件

米連邦裁判所は、公表した3件の訴訟において、小児の自閉症様症状の原因がワクチンであり得ると判示した。以下にその概要を提示すると共に、同裁判所の判決内容のPDFを添付する。

概要:

1) ハンナ・ポーリングー米保健社会福祉省 (DHHS) は、この9歳女児の米連邦裁判所での損害賠償請求を、2008年に秘密の和解で解決した。DHHSの専門家は、彼女のミトコンドリア機能障害は「稀」であると主張して、審理を経ることなく損害賠償を認めた。最近の研究から、非自閉症児と比較して自閉症児では、ミトコンドリア機能障害は稀ではなく一般的であることが明らかになっている。

ハンナ・ポーリングは、1日に9種類のワクチンを投与された後、自閉症様症状を発現した。彼女は最近、生涯にわたる補償として2,000万米ドルを付与された。彼女の父、ジョンは米国ジョーンズ・ポプキンズ大学の医師であり、母は元看護師である。

[ワクチンを原因とする自閉症に対し裁判所が2,000万米ドルを上回る賠償金を認定](#) ([Court Awards Over \\$20 Million for Vaccine-Caused Autism](#)) – PRニュースワイヤ(プレスリリース) – 2010年9月15日

[ワクチンと自閉症に関する裁判で初めて家族が150万米ドルを上回る賠償金を受領](#) ([Family to Receive \\$1.5M+ in First-Ever Vaccine-Autism Court Award](#)) – CBSニュース、2010年9月9日

[自閉症とワクチン訴訟で和解に到達](#) ([Settlement reached in autism-vaccine case](#)) – 2010年9月10日、文責: キャリー・ティーガーディン – 米紙アトランタ・ジャーナル&コンステイテーション

<http://www.youtube.com/v/G8wseIXsPmw?version=3>

2) ベイリー・バンクス

ベイリー・バンクスに関する訴訟で米連邦裁判所は、**自閉症様症状がMMRワクチン接種後の急性播種性脳脊髄炎 (ADEM) に起因する可能性がある**と判示した。ベイリー・バンクスに自閉症様症状は認められなかったと英議会への答弁書で主張した英保健相は、英国議会の誤った方向に導いたことになる。

ベイリー・バンクスは、MMR ワクチン接種後に自閉症様症状である PDD-NOS（特定不能の広汎性発達障害）を発症した。ベイリー・バンクスの診断名は、アメリカ精神医学会（APA）の『精神障害の診断・統計マニュアル』第 4 版に従った米国の用語であるが、米国以外では、国際疾病分類に基づいて「自閉症スペクトラム障害」と呼ばれている。[[バンクス対 HHS 事件 \(Banks v. HHS\)](#)（事件番号 02-0738V、2007 米国損害賠償請求レクシス 254、2007 年 7 月 20 日）]

米連邦裁判所の特別補助裁判官エーベルは結論として、MMR が急性播種性脳脊髄炎（ADEM）と呼ばれる脳炎症疾患の直接の原因であり、これが小児における自閉症スペクトラム障害、PDD-NOS を引き起こしたことを、原告は実証できたと裁定した。

同裁判所は、ベイリーの ADEM が、予防接種を事実上の原因とし、かつ、直接の原因とすると判示した。問題の予防接種が ADEM の原因になり得ることは周知の事実であり、同裁判所はこの事件に関連する事実の十分な判断と審理を踏まえて、予防接種が実際に ADEM を引き起こしたと判示した。ベイリーの ADEM は損傷が長引き、後遺症となるほど重篤で、彼の発達を遅らせるものであったため、広汎性発達障害すなわち PDD [編集者による注記：自閉症スペクトラム障害] という一般的用語に該当するものであった。MMR ワクチン投与がなければベイリーにこの発達遅滞は認められなかったであろうし、この因果関係の鎖、原因と結果の直接の連鎖が、予防接種から広汎性発達障害へと直接的につながったと、同裁判所は判示した。

[[バンクス対 HHS 事件 \(Banks v. HHS\)](#)（事件番号 02-0738V、2007 米国損害賠償請求レクシス 254、2007 年 7 月 20 日）]

しかし、英国保健相ドーン・プリマロロの英国議会での模様は次のようなものであった。

自閉症様症状の原因がワクチンであるとして、これを根拠に米連邦裁判所の裁判で勝訴したベイリー・バンクスは、自閉症と診断されていなかったとプリマロロ女史は主張した。プリマロロ大臣は同じ情報を、有権者を代表して英国国会議員が行った質問への答弁書として送ったとも報告されている。

答弁書：MMR ワクチン ([MMR Vaccine](#)) は、2009 年 3 月 18 日の英国国会の公式議事録（第 1229W 欄）であるハンサード国会議事録に記載されている。ハンサード国会議事録でのやり取りの全文は以下のとおりである。

MMR ワクチン

マーク・プリチャード：保健大臣に質問します。MMR ワクチンに対する米保健社会福祉省の政策に関する、ベイリー・バンクス対米保健社会福祉省長官事件の米国の裁判での判決の影響を、保健大臣は評価されますか？ [263933]

ドーン・プリマロロ: 2007年に合衆国連邦請求裁判所は、はしか・おたふく風邪・風疹(MMR)ワクチン接種後の急性播種性脳脊髄炎(ADEM)に起因するベイリー・バンクスの自閉症でない発達遅滞に対し、彼の父に賠償金を付与する判決を下しました。ADEMは、狂犬病ワクチン、ジフテリア・破傷風・百日咳ワクチン、天然痘ワクチン、MMRワクチン、日本脳炎ワクチン、百日咳ワクチン、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチンの後に発症すると報告されている極めて稀な疾患です。ベイリー・バンクスの訴訟が、MMRワクチン政策に影響を及ぼすことは一切ありません。

3) ベン・ツェラー

ベン・ツェラーはワクチンを原因として発達遅滞を来したことが実証されたが、米連邦裁判所のベン・ツェラーの訴訟での判決記録には、被告である米保健社会福祉省は以下の説明以外には何ら別の説明をしなかったと記載されている。

ウィズニツァー医師が仮説化したように、治療した数名の医師による未確認の仮説 (<http://www.uscfc.uscourts.gov/sites/default/files/ABELL.ZELLER073008.pdf>)

研究により以下が確認されている。

- 予防接種後に自閉症様症状に至ることがあるハンナ・ポーリングのミトコンドリア機能障害は、自閉症児では稀ではなく一般的であること
- 自閉症様症状と重篤な腸疾患との間の関連を明確化した 1998 年ランセット誌論文の早期研究は正しかったこと

1) ミトコンドリア機能障害は稀ではない

A—2010年12月1日の新論文—米国医師会雑誌 (JAMA)

[自閉症におけるミトコンドリア機能障害 \(Mitochondrial Dysfunction in Autism\)](#)

JAMA. 2010;304(21):2389-2396. doi: 10.1001/jama.2010.1706

上記の論文は、[米国保健当局者の主張に反して] 米国の9歳女児、ハンナ・ポーリングのような小児では、ミトコンドリア機能障害は稀ではなく一般的であることを確認するものである。こうした小児は、

「通常に発達している小児よりも、ミトコンドリア機能障害、ミトコンドリアDNAの過剰複製、およびミトコンドリアDNAの欠失が認められる可能性が高い」ことを、新たな論文は確認している。

この論文はロイターが報道したものである。

[一部の自閉症児に認められる細胞の「発電所」の損傷 \(Cells' 'power plants' damaged in some autistic kids\)](#) 一文責：フレデリック・ジョエルヴィング、ニューヨーク、2010年11月30日（火）東部標準時午後5時15分

B- 『*Journal of Neuroinflammation* (神経炎症雑誌)』 2010 Nov 17;7:80. 自閉症児の血清におけるミトコンドリア DNA と抗ミトコンドリア抗体 ([Mitochondrial DNA and anti-mitochondrial antibodies in serum of autistic children](#))

抄録

自閉症スペクトラム障害 (ASD) は、コミュニケーション困難、認知障害、学習障害及び常動行動を特徴とする神経発達障害である。大多数の症例において、信頼できるバイオマーカーや明確な病因はない。しかしながら、増加しているエビデンスは、ASD が一部の免疫調節異常と相関している可能性があり、神経免疫成分を有している可能性があることを示している。著者らは最近、自閉症児ではペプチドニューロテンシン (NT) が増加していることを明らかにした。本論文では、NT が細胞外ミトコンドリア DNA (mtDNA) の放出を促進し、これが自己免疫発症誘因として作用する可能性を示す。さらに、若年自閉症患者の血清は、通常に発達している非自閉症の対照 (n=12) と比較して、mtDNA (n=20; シトクロム B、p=0.0002、及び 7S、p=0.006) 及び抗ミトコンドリア抗体 2 型 (n=14; p=0.001) を含んでいることも示す。細胞外 (血中) mtDNA 及びその他の成分が自閉症のエンドフェノタイプ (中間表現型) の特徴である可能性があり、自己免疫反応を活性化することで自閉症の病因の一因となっている可能性がある。

2) 腸疾患は自閉症の子どもに非常に多い

2010年1月4日発行—小児科学—医療コンセンサス・レポート

小児科学第 125 巻補遺、2010年1月、pp. S1-S18 (doi:10.1542/peds.2009-1878C)
[ASD の人々における胃腸障害の評価、診断、治療: コンセンサス・レポート \(Evaluation, Diagnosis, and Treatment of Gastrointestinal Disorders in Individuals With ASDs: A Consensus Report\)](#)

「自閉症スペクトラム障害 (ASD) は、臨床的異質性のある一般的な神経発達障害である。ASD の人々の胃腸障害やそれに伴う症状が報告されることが多いが、これらの障害・疾患の有病率や最善の治療等の重要な事項に対する理解は不十分である。ASD に伴う胃腸障害を理解し、特徴付ける上で最も困難な点は、ASD の人々の多くが経験するコミュニケーションの難しさである。この患者集団における胃腸問題の診断的評価と管理に向けたエビデンスに基づく勧告を作成することを目的に、学際的な委員会が医学文献を検討した。」

Pediatrics. 2009 Mar;123(3):1018-24.[自閉症と胃腸疾患が共存する家族における MET の相関に基づいた明確な遺伝的リスク](#) (Distinct genetic risk based on association of MET in families with co-occurring autism and gastrointestinal conditions.)

「自閉症スペクトラム障害の中心的な行動症状に加えて、多くの患者は胃腸障害等の複雑な疾患を呈する。このような相関的要素に基づいて、自閉症スペクトラム障害と胃腸疾患が共存する人々のサブセットにおいては、自閉症スペクトラム障害に関連する MET プロモーター変異体が多く存在する可能性があるとの仮説を立てた。」

「結果：全体で 214 の家族サンプルにおいて、MET rs1858830 C の対立遺伝子は自閉症スペクトラム障害と胃腸疾患の双方に関連していた。」

インペリアル・カレッジ・ロンドンから：J Proteome Res. 2010 Jun 4;9(6):2996-3004.[自閉症児と非自閉症兄弟及び年齢適合対照群との間で相違する尿中代謝表現型](#) (Urinary metabolic phenotyping differentiates children with autism from their unaffected siblings and age-matched controls.)

「このような生化学的変化は、自閉症の人々とそれに伴う胃腸障害に認められる腸内細菌叢の既知の異常の一部と一致しており、治療的介入の成功度のモニタリングに有用な可能性がある。」